

2024年11月24日

「光の露」

イザヤ書 26:12-19

早川 真牧師

旧約時代、神の民とはイスラエルの民のことでした。しかし新約の時代に入りイエス・キリストが世に来られた今、神はイエス・キリストを信じる者をご自分の民、神のイスラエルと呼んでくださいます。それはたとえ私たちの状態が死者のようであっても、神が独り子イエス・キリストを死者の中から復活させたように、イエス・キリストを信じる者をも復活させ、再び命を得させ、立ち上がらせてくださるということです。

イスラエルの地域においては雨の降らない乾季(5~10月)には露だけが植物に水分を与え、その露は驚くほど豊かな実りを大地に与えるそうです。植物は水分がないと枯れてしまいます。同じように私たちは光がないと枯れてしまいます。光とは希望です。希望がないと私たちは枯れてしまいます。

イエス・キリストがこの世に来られたとき、ユダヤの王ヘロデは自分の王位が脅かされることを恐れてイエスが生まれたベツレヘム周辺の二歳以下の男の子をひとり残らず殺すようにと命じました。まさに周囲を絶望が取り巻くような状況でした。しかしそのような神を畏れることのない、言わば死霊の地に神はイエス・キリストという光の露を降らせてくださいました。

いよいよ来週からアドベントに入ります。アドベントは待降節とも言い、御子の降誕を待ち望む時です。たとえ私たちが自らの謀りごとに頼り、時に自らを暗黒の中に置こうとも、そこに光の露を送ってくださる神がおられます。そのことを信じ、希望を持って、御子の降誕を祝うクリスマスまでの日々を共に歩んでまいりたいと思います。